



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2019年3月号（566号）》

目 次

報 告	
・ 常任司教委員会	1
・ 新福音化委員会	2
・ 典礼委員会	3
・ 難民移住移動者委員会	4
・ カリタスジャパン	6
・ 正義と平和協議会	8
・ 部落差別人権委員会	8
・ 日本キリスト教連合会	9
・ HIV/AIDS デスク	10
・ 中央協議会事務局（総務）	12
公文書	12

常任司教委員会

■1 月定例常任司教委員会

日 時 2019年1月10日（木）10:00-14:00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 委 員 7人

事務局 6人

報 告

1. フランシスコ教皇との謁見について

2018年12月17日(月)に前田万葉枢機卿、高見三明大司教、菊地 功大司教、通訳として同行したヨゼ

フ・アベイヤ司教がフランシスコ教皇と謁見し、その際、教皇から2019年の終わり頃、日本を訪問したい意向が述べられたことが報告された。

- 『今こそ原発の廃止をー日本のカトリック教会の問いかけー』英語版について
『今こそ原発の廃止をー日本のカトリック教会の問いかけー』の英語版の進捗状況が報告された。2017年10月に発行予定であったが、完成は2020年春になる見込みである。
- パックス・クリスティ・インターナショナル世界大会2020日本開催について
日本カトリック正義と平和協議会が公式パートナーとして認定されている国際的なカトリック平和団体であるPax Christi International (PCI) の創立75周年記念として、2020年の世界大会を広島で開催することが報告された。
- 教皇庁人間開発のための部署主催の「薬物と依存症」国際会議参加について
2018年11月29日ー12月1日に教皇庁人間開発のための部署主催の「薬物と依存症」の国際会議に、同部署から招聘されて参加した「ギャンブル依存症問題を考える会」代表理事の田中紀子さんから届いた会合報告を紹介した。
- 中央協議会口座の東日本大震災復興義援金残高について
2018年12月31日現在の中央協議会口座の東日本大震災関連・義援金残高報告が行われた。義援金総額は73,542,948円、支出合計は、65,769,680円、残高は7,773,268円となった。

審 議

- 2019年度定例司教総会内容確認について
本年2月12日(火)ー15日(金)開催予定の定例司教総会で取り扱う報告事項と審議事項を確認した。
- フランシスコ教皇来日準備について
フランシスコ教皇来日に向けての準備として、常任司教委員会が準備委員会となることを確認した。
- FABC中央委員会からの執行委員会設置にあたっての要望について
FABC中央委員会からの依頼である執行委員会設置にあたってのFABC副会長と事務総長の推薦は高見大司教に一任した。
- 『聖書 聖書協会共同訳』発行にあたっての現時点での対応について
2018年12月に日本聖書協会から刊行された『聖書 聖書協会共同訳』のカトリック教会の典礼での使用については数年先に検討することとし、『毎日のミサ』などの引用やミサの聖書朗読について、現時点では現行どおり『聖書 新共同訳』を使用する。
- 日本カトリック信徒宣教者会顧問司教の承認について
日本カトリック信徒宣教者会の顧問司教として、2019年4月1日より2022年3月31日までの期間、さいたま教区の山野内倫昭司教が就任することを承認した。
- カトリック中央協議会規則および登記事項変更について
2019年4月の「東京カトリック神学院」ならびに「福岡カトリック神学院」の開校にともない、現行の中央協議会規則と登記事項を提案どおり変更することを承認した。

新福音化委員会

■2018年度第3回会議

日 時 2018年12月14日(金) 15:15ー16:30
場 所 日本カトリック会館 会議室5
出席者 5人

審 議

「福音宣教のための特別月間」に向けた取り組みについて

前回会合に引き続き、教皇ベネディクト十五世による使徒的書簡『マキシムム・イルド』の発布 100 周年を迎えることを記念した「福音宣教のための特別月間」(2019 年 10 月)に向け、日本の教会として実施できる取り組みについて検討した。

典礼委員会

■定例会議

日 時 2019 年 1 月 21 日 (月) 13:30-17:30
場 所 カトリック横浜司教館 (神奈川・横浜市)
出席者 9 人
欠席者 2 人

報 告

1. 『典礼聖歌 (一般用・新装版)』の発行について

カトリック中央協議会があかし書房より版元を引き継いだ掲記書籍が 1 月 20 日付で発行された。本体価格は 2000 円 (税抜)。内容として楽譜の変更はしないが、当委員会委員長による前書き、表記の不統一の修正や新しい「信条」の旋律などを付加した。サイズはこれまでと同様だが表紙の色と背文字の書体に変更されることになった。

2. 讃美歌・聖歌担当者懇談会について

本年 1 月 15 日に開催された第 5 回の掲記会議参加報告を秘書が行った。同懇談会は日本基督教団讃美歌委員会主催による、讃美歌集・聖歌集の編集・発行に携わるキリスト教諸派の担当者の会合で、讃美歌や聖歌の共有に関する話し合いを続けていく予定。

審 議

1. 2019 年度全国典礼担当者会議について

本年 9 月 2 日-4 日に中軽井沢・御聖体の宣教クララ修道会で行われる掲記会議の内容について意見交換を行った。昨年のテーマ「信徒による典礼奉仕の共通理解を求めて」を受けて、本年も信徒の典礼奉仕者のためのハンドブック作成を視野に入れた解説を行う予定。引き続き、具体的な検討を行う。

2. 葬儀ミサを行うことのできない典礼日について

日本語版『葬儀』儀式書の「緒言」と「ローマ・ミサ典礼書の総則」とでは指示が異なっている掲記典礼日について、『葬儀』儀式書の「緒言」の修正案を検討した。今会合での意見と合意事項をもとに修正し、2 月の定例司教総会に提案する。

3. 「四旬節・聖なる過越の三日間・復活節の典礼に関する補足事項」について

2017 年度第 2 回臨時司教総会で承認を受けた掲記資料は各教区本部事務局に送付され、カトリック中央協議会ウェブサイトで公表されている。小教区や修道院などへの周知を図るため、冊子形式として発行する案が出されたことを受けて、今会合で若干の修正を行い、2 月の常任司教委員会に提出する準備を行う。

4. 『聖書 聖書協会共同訳』について

2018 年 12 月に発行された掲記書籍については、1 月の常任司教委員会で、カトリック教会の典礼での使用については数年先に検討し、当面は『聖書 新共同訳』を用いることが確認された。それを受けて、以前から課題となっている朗読福音書や週日用の朗読聖書の発行の可能性について意見交換を行った。

難民移住移動者委員会

■第8回人身取引問題に取り組む部会(タリタクム日本)運営委員会

日時 2018年11月17日(土) 10:00-12:00

場所 カトリック郡山教会(仙台教区)

参加者 13人

報告

1. 国際タリタクムから新ロゴが発表された。
タリタクム日本のポスター、ニュースレターなどに使用できる。
2. ケースの報告
北海道および福島県郡山市の技能実習生保護と、愛知県の技能実習生の労災確認についての報告があった。なお、国際タリタクムのデータベースに載せるためにケースの内容を報告することが確認された。

審議

1. 人身取引関連の援助金規定について
人身取引に関連する援助金申請については、難民移住移動者委員会援助金規定に則したものであることを確認し、難民移住移動者委員会の援助審査会で審議決定する。
2. 「人身取引撲滅のための祈り」について
聖バキータの祝日(2月8日)に合わせて、国際タリタクムから発行されている「人身取引撲滅のための祈り」を難民移住移動者委員会のホームページなどで公開し、全国に祈るよう呼びかける。

■第3回ベトナム対応チーム会議

日時 2018年12月3日(月) 12:00-15:00

場所 日本カトリック会館 会議室5

出席者 5人

2019年3月15日にベトナム人司牧者を対象とした研修会を昨年に引き続き開催する。

ベトナム人支援にかかわる人を増やすため開催する。各地域から支援や取り組みを報告し、技能実習生問題に詳しい山村淳平医師(横浜市・港町診療所)の講演と新しい「出入国管理及び難民認定法(入管法)」について情報共有する。

前日(3月14日)にベトナム人司祭、修道者のネットワーク会議を開き、技能実習生、留学生被害者対応のためのネットワークを確立する。

■第11回事務局会議

日時 2018年12月5日(水) 10:00-12:00

場所 日本カトリック会館 会議室3

出席者 8人

報 告

1. アドボカシー（政策提言）および啓発プロジェクト活動報告
入管法改正案が衆議院で強行採決された。参議院では必要な法制度について、現実的には附帯決議で追加することを NGO 団体とともに求めている。
2. 教皇庁から世界難民移住移動者の日祈願日を 9 月最終日曜日に変更するとの通達が来ている。対応は常任司教委員会で審議される。
3. 2019 全国研修会（2019 年 2 月 28 日－3 月 2 日、福岡）進捗について
開催要項案を確認した。フィールドワーク詳細はまとまり次第報告する。
4. FABC OHD 難民移住者人身取引に関する会議（2019 年 2 月 11 日－17 日、バングラデシュ）
移住者、人身取引テーマの日本レポート準備について、派遣予定者と事務局でデータなど協力し作成する。
5. 広報活動 J-CaRM News No. 2、タリタクムニュースレター No. 4 発行
移住労働者と連帯する全国ネットワーク（移住連）の東京フォーラム案内、カレンダー案内、からふる小冊子案内と合わせて今週発送する。

審 議

1. 援助金申請（2 件）について承認
2. 中期計画について
計画書の検討、行動計画の立案について、作業部会メンバーで 2 月の定例委員会に向け、最終確認を進める。
3. 2019 年活動計画を確定した。

■2019 年度第 1 回事務局会議

日 時 2019 年 1 月 9 日（水）15：00－17：00

場 所 日本カトリック会館 会議室 2

出席者 8 人

報 告

1. アドボカシーおよび啓発プロジェクト活動報告
12 月に改訂入管法が成立したが、新しい特定技能の在留資格についての基本的内容の公表は進んでいない。移民政策でないことが明言されており人権問題が懸念されている。
2. 2019 年全国研修会（2 月 28 日－3 月 2 日、福岡・大名町教会）の準備進捗について
3. 広報活動予定
J-CaRM News は 4 月復活祭明けに発行予定。特集は改訂入管法特定技能など。
4. 臨時司教総会の報告
世界難民移住移動者の日祈願日は 9 月最終日曜日に変更することを決議。教皇庁の発表に合わせた。

審 議

1. 中期計画について
計画書作成は作業部会で草案作成し、次回事務局会議、定例委員会に提出する。
2. 排除 ZERO キャンペーン（カリタスジャパンとの共催）における全教会に対してのアンケートについて
作業部会で引き続き検討する。
3. 次回、定例委員会に次期定例委委員候補の確認を行う。

カリタスジャパン

■第6回事務局会議

日 時 2018年12月21日(金) 14:30-17:00
場 所 日本カトリック会館 会議室4
出席者 7人

報 告

1. 援助部会、啓発部会の取り組みについて
2. 事務局の取り組みならびに2018年7月-9月の収支状況について

審 議

1. 2019年度年間予定を確認した。
2. 中期戦略計画振り返りと次期計画立案について
3. 遺贈募金について審議し、次回継続審議となった。
4. カリタスジャパンの委員会・部会体制の将来像について審議し、次回継続審議となった。

次回日程 2019年2月5日(火) 13:30-15:00 日本カトリック会館

■第6回啓発部会会議

日 時 2019年1月8日(火) 10:00-14:00
場 所 日本カトリック会館 会議室3
出席者 11人

報 告

2018年11月から2019年1月までの活動について

審 議

1. We are Caritas 15号(2019年2月号)について
「排除の実例特集」についての紙面構成を検討し、編集に関する各委員の役割と担当を決定した。
2. 今後の啓発部会について
継続審議となった。

次回日程 2019年2月26日(火) 10:00-14:00 日本カトリック会館

■第6回援助部会会議

日 時 2019年1月8日(火) 14:00-18:20
場 所 日本カトリック会館 会議室4
出席者 10人

報 告

1. 前回議事録を報告し内容を承認した。
2. 12月に開催された援助審査会の結果について

3. 海外視察・会議

(1) アフリカ視察 (2018年10月12日-26日)

- ・ウガンダでは、3教区の事業実施地を視察した。今後の方向性（自己資金調達など）についても意見交換した。
- ・エチオピアでは、新規事業実施予定地を訪問した。申請内容についても協議した。

(2) カリタスアジア反人身取引とキャンペーン視察 (11月29日-30日、タイ)

- ・カリタスタイの取り組みを視察した。
- ・メコン川流域諸国の同分野担当者との情報交換も行った。

4. 国内災害対応

(1) 東日本大震災 全ベース会議 (12月17日-18日、宮城・南三陸町)

長崎教会管区の災害対応の取り組み報告や各ベースからの報告などがあった。会議後現地視察を行った。

(2) 熊本地震

昨年末で募金受付終了。募金総額約1億円。現地支援団体 KVOAD を通じて仮設住宅入居者支援を継続中。

(3) 西日本豪雨災害

昨年末現在で募金総額約92百万円。広島教区のサポートセンターは活動継続中。

5. 援助実績報告

6. 事務局報告

排除 ZERO キャンペーンを引き続き実施中。昨年12月より名古屋教区を皮切りに、全教区を巡るリレー写真展を開始した。

審 議

1. 海外会議・視察

以下の会議、セミナーへの参加を承認した。

(1) 国際カリタスセミナー「カトリックアイデンティティ」(1月21日-23日、タイ)

(2) FABC セミナー「アジアにおける移住者、難民、避難者、人身取引と再生可能エネルギー」(2月11日-17日、バングラデシュ)

(3) カリタス中東・北アフリカパートナー会議 (2月27日-3月2日、レバノン)

2. その他

(1) 熊本地震復興支援

現地支援団体からの今後の支援についての提案(新築復興公営住宅に入るのが難しい約1千世帯のうち、既存の公営住宅(風呂設備がない)へ入居する世帯への風呂設置支援)を承認した。

(2) 海外援助事業契約書改定に関して、「海外支援の基本理念」(日本カトリック司教協議会1999年版)を見直す方向で、「援助方針」の策定を進める。

(3) 国際カリタス分担金について提案を審議し、カリタスジャパンとしての回答を決定した。

3. 援助審査 国内一般1件、西日本豪雨災害5件、海外7件を審査、西日本豪雨災害5件のうち1件は却下、以下を承認した。。

(1) グレイス・ロード「自立訓練(生活訓練)事業所開設に伴う什器備品・設備工事」1,000,000円

(2) カリタス広島災害サポートセンター「西日本豪雨災害」8,884,060円(4件合計)

(3) カンボジア「若者職業訓練支援(バタンバン)」20,000 USドル

(4) エチオピア「気候変動対応1/3年目」19,893 USドル

(5) パレスチナ「医療支援」20,000 USドル

(6) ウガンダ「持続可能な農業支援2/3年目」71,738 USドル

(7) バングラデシュ「山岳民族の初等教育支援3/3年目」50,437 USドル

(8) モンゴル「ゲルエリア貧困地帯の子どもセンター支援」25,000 USドル

(9)モンゴル「カリタスモンゴル組織強化支援」25,000 US ドル

次回日程 2019年2月26日(火) 14:00-18:00 日本カトリック会館

正義と平和協議会

■事務局会議

日時 2019年1月15日(火) 10:00-16:00

場所 日本カトリック会館 会議室5

出席者 6人

報告

1. 新規委員の内諾状況
2. 部会報告
改憲対策部会、平和のための脱核部会、死刑廃止を求める部会、ピース9の会活動状況報告
3. 全国会議(2月28日-3月1日)準備状況
4. 上智大学主催シンポジウム(5月)とパックス・クリスティ・インターナショナル世界大会(2020年5月)の進捗状況

審議

1. 全国会議(2月28日-3月2日)
スケジュールの確認、役割、担当を検討した。
2. 定例委員会(2月5日)
議案の確認を行った。
3. 全国集会名古屋大会
次回事務局会議で名古屋教区松浦悟郎司教を交え、振り返りと今後の課題について討議する。
4. 沖縄との連帯について
5. 公開セミナー「核と平和」(日本キリスト教協議会平和・核問題委員会との共催)について
 - ・テーマ「沖縄と平和」
日時 1月19日(土) 13:30-16:00
会場 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院 9階ホール(東京・千代田区)
講師 ウェイン・バーント司教(那覇教区)、平良愛香さん(日本基督教団牧師)
 - ・テーマ「核と基地」
日時 1月26日(土) 13:30-16:00
会場 カトリック麴町教会 ヨセフホール(東京教区)
講師 木村 朗さん(鹿児島大学)、高橋博子さん(名古屋大学)、平良愛香さん

部落差別人権委員会

■事務局会議

日時 2018年12月27日(木) 11:00-16:00

場 所 日本カトリック会館 会議室 3

出席者 7人

報 告

1. 2018年度第5回事務局会議（10月12日）
2. 2018年度第4回定例委員会（11月30日）
3. 2018年度活動
4. その他
 - ・大阪教会管区部落差別人権活動センター
 - ・各教区の活動予定
 - ・第96回社会司教委員会司教・秘書合同会議（12月14日）

審 議

1. ハンセン病謝罪声明について
謝罪声明(案)を検討した。
2. 2019年度－2021年度中期事業計画について
テーマ、合宿、シンポジウム、全国会議、『いのちへのまなざし』抜粋冊子などについて検討した。
3. 秘書、定例委員についての任期の推薦について
現在の秘書、定例委員の任期と、次期（2019年4月－2022年3月）の候補、推薦について検討した。

日本キリスト教連合会（日キ連）

■2018年度第2回常任委員会

日 時 2018年9月7日（金）16：00－17：30

場 所 日本キリスト教会館 会議室（東京・新宿区）

出席者 9人

文化庁宗務課より光石泰典さん（課長補佐）と大澤広嗣さん（専門職）が来訪しあいさつがあった。

報 告

1. 日本宗教連盟（日宗連）
7月19日（木）幹事会
 - ・厚生年金の加入問題について厚生労働省の担当官が来訪し30分間意見交換を行った。
 - ・文化庁が主催する宗教法人の実務研修会の講義資料を確認した。
 - ・「信教の自由に関する国際会議」（7月24日－25日、アメリカ合衆国・ワシントンD.C）に戸松義晴幹事を派遣することを決めた。
 - ・文化庁50周年に係る「表彰者」についての文化庁からの問い合わせを確認した。（日宗連の顧問を務めた各団体の教役者が表彰の対象者になっている）
 - ・「行政改革に伴う『省庁再々編』に関して」の要望書を、自民党行革担当者（甘利 明衆議院議員）に提出した。
2. 東京都宗教連盟（都宗連）
7月30日（月）に理事会が開催され浦野雄二師（カトリック）も出席した。
 - ・都庁宗教法人係より連絡

平成 30 年度第 1 回関東甲信越静地区宗教法人実務研修会の出席案内

- ・櫻井國男法務顧問による「宗教法人実務勉強会」が 8 月 17 日開催の予定
- ・都内宗教施設災害時受入体制調査について情報の分かち合い
- ・第 49 回宗教法人実務研究協議会の案内
- ・京都仏教会「第 3 回公開研究会」（年金問題）参加呼びかけがあった。

3. 事務局

1) 日キ連あての文書

- ・文部科学省設置法の一部を改正する法律の公布について（平成 30 年 6 月 15 日）回覧済み。
- ・神社本庁統理就退任あいさつ（平成 30 年 6 月）回覧済み。
- ・世界平和祈願法要・記念式典・シンポジウム・閉会式典（全日本仏教財団創立 60 周年記念）案内（11 月 9 日、曹洞宗大本山總持寺）および献金依頼。回覧済み。

2) 事務局対応

- ・定例講演会（9 月 7 日、講演者 戒能信生さん）の案内を各団体に送付。
- ・東京都宗教連盟防災アンケートのお願いについて、各団体からデータを収集、都宗連に送付した。
- ・法人実務・会計実務研修会（10 月 10 日－12 日、富士箱根ランド）の受付および準備。
- ・保守バプテスト同盟古川聖書バプテスト教会の退会願を受け付けた。

審 議

1. 定例講演会の役割分担

- ・開会祈祷 矢木委員 ・司会 道家委員 ・閉会祈祷 廣瀬委員

2. 第 43 回法人実務・会計実務研修会について

- ・2 日目日の特別講義は「教団（教会）への寄付行為」（長岡淳三税理士）とする。

- ・開会礼拝 本田委員、閉会礼拝 矢木委員

- ・早天礼拝

カトリック 1 日目 大水委員、2 日目 川口 薫師

プロテスタント 1 日目 滝田浩之委員、2 日目 八木靖之牧師（日本基督教団）

- ・2 日目日の自由時間について

「美術館巡り」担当 矢木委員、「小田原教会巡り」担当 大水委員、「芦ノ湖散策」担当 滝田委員
伊豆急バスをチャーターする。

富士箱根ランドからのマイクロバス 1 台は「小田原教会巡り」とする。

見学の交渉は、カトリック教会大水委員、正教会道家委員、聖公会矢萩新一委員とする。

3. 退会申し出について

保守バプテスト同盟古川聖書バプテスト教会（代表役員 飯塚清昭）からの退会の申し出を承認した。

次回日程 2018 年度第 3 回常任委員会 2018 年 12 月 11 日（火）16：00－17：30

日本キリスト教会館会議室（東京・新宿区）

HIV/AIDS デスク

■第 1 回 HIV/AIDS デスク会議

日 時 2019 年 1 月 9 日（水）15：30－17：00

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 8 人

報 告

1. アジア・太平洋カトリック HIV/AIDS 連合会議
11月5日-10日にミャンマーのヤンゴンで開催され、8か国から110余人が参加した。日本からは事務局の伊東とサポーターが参加した。12月2日号カトリック新聞に記事と写真が掲載された。
2. 日本カトリック神学院ザビエル祭
11月23日、展示会場に出展して、担当した平良委員が多くの来場者と交流できた。
3. 正義と平和全国集会の第5分科会
11月24日、布池文化センターのコンコルディアホールで、分科会「LGBTと人権～僕がゲイクリスチャンで良かったこと」が開かれ、40人を超える参加者が熱心に平良委員の話聞いた。分科会の会場内と、23日には布池教会の地下ホールで啓発物を紹介した。
4. 世界エイズ・デー記念礼拝
第24回となる記念礼拝が11月25日、牛込聖公会聖バルナバ教会(東京・新宿区)で開催され、デスク委員やサポーター、事務局が参加した。
5. 清泉女子大学(11月26日)と白百合女子大学(11月28日)での講義
河野委員と事務局の伊東が両大学の学生に向けてHIV/AIDS啓発などの話をした。HIV抗体検査の情報など周囲の人にも教えるとの反応が多かった。
6. 第32回日本エイズ学会での展示についての報告
12月2日-4日に大阪国際会議場で開催された。宮本秘書、イグナシオ・マルティネス社会福音化推進部長、鮫島委員、事務局のほか大阪在住の複数のサポーターが、展示場でカトリックの取り組みを紹介した。割り当てられたブースが目立つ場所で条件が良かったこともあり、啓発物が人気だった。
7. 文京区レッドリボン展
レッドリボンのビーズバッジの製作を仲介している。12月5日、会場のシビックセンターではHIV/AIDSに関するクイズなどをしていった。
8. 助祭団(12月7日)と清泉女子大学ボランティアセンター(12月19日)からの訪問
デスクの啓発活動の紹介をした。
9. ホームページの更新
活動のページを更新して、ニュースレターも掲載した。

審 議

1. ミニカード第5版の発行について
残数が少なくなったので、デザインを若干変えて、裏面のデータを確認・再考して発行する。
2. 公募デザインの活用法について
デザイナーと相談して進めることにする。
3. デスク主催の講演会「性教育 どこまで教えるの?パート2」の開催に向けて
日程は6月15日(土)午後、講師は平良委員と現場の教員経験者とする。場所は四ツ谷で探す。
4. デスク規約案について
「司教総会」で承認するという文言は「常任司教委員会」に変換する。

今後の講義の予定

- 立教大学 1月16日(水)
函館ラサールとカトリック函館地区中高生会 1月26日(土)、27日(日)
近畿カトリック学校宗教科などの教員に向けて 11月15日(金)
白百合女子大学 11月あるいは12月の水曜日と金曜日

次回日程 2019年3月4日(月) 15:30-17:00 日本カトリック会館

中央協議会事務局

■総務

3月会議予定

4日(月)	第2回 HIV/AIDS デスク会議	日本カトリック会館
6日(水)	子どもと女性の権利擁護のためのデスク事務局会議	〃
7日(木)	常任司教委員会	〃
7日(木)	難民移住移動者委員会タリタム日本事務局会議	〃
12日(火)	カリタスジャパン援助審査会	〃
14日(木)	難民移住移動者委員会ベトナム人司牧者ネットワーク会議	〃
15日(金)	難民移住移動者委員会ベトナム人司牧者研修会	〃
15日(金)	難民移住移動者委員会事務局会議	〃
20日(水)	難民移住移動者委員会 AOS(船員司牧)コア会議	〃
27日(水)	正義と平和協議会事務局会議	〃

<会報 2019年3月号 公文書>

2019年世界病者の日 教皇メッセージ

2019年第27回「世界病者の日」教皇メッセージ

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタイ 10・8)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」(マタイ 10・8)。これは、イエスが、福音をのべ伝えるために使徒たちを派遣する際に、無償の愛のわざを通してみ国を広めるよう述べたことばです。

第27回「世界病者の日」がインドのコルカタで2019年2月11日に厳かに祝われるにあたり、病者をはじめとするすべての子らの母である教会は、よいサマリア人のように無償で与えることが福音宣教のもっとも確かな方法であることを、わたしたちに思い起こさせます。病者に対するケアには、専門的な技能と愛情、さらには優しく触れる行為のような、「愛されている」と相手に感じさせる無償で直接的で飾らない行いが求められます。

いのちは神から与えられた「恩恵」(たまもの)です。「いったいあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるでしょうか」(一コリント 4・7)と聖パウロが指摘しているとおります。神から与えられた恩恵であるからこそ、単なる所有物や私有財産とみなすことはできません。医学とバイオテクノロジーの進歩により、「いのちの木」(創世記 3・24 参照)の操作への誘惑に人々がさらされている状況においてはなおさらです。

その「恩恵を互いにささげ合うこと」(たまもの)は、新たなきずなど多種多様な協力関係を諸民族、諸文化の間に結ぶために、利己主義や現代社会の分断化に挑戦することを可能にする枠組みとして位置づけられるべきであることを、わたしは、使い捨てと無関心の文化に直面する中で強調したいと思います。対話は、恩恵をささげ合うこと的前提となるものであり、人類を成長、発展させ、社会における権力の行使という既成の構図を打破することのできる、人間関係の幅を広げます。ささげ合うことは、単に贈り物をすると同じではありません。自分自身を差し出してはじめてそう言えるのであって、単なる財産や物の受け渡しではありません。そこには自らをささげることが含まれており、きずなを結びたいという願いが伴っているからこそ、贈り物をするとは異なるのです。このように、ささげ合うことは、何よりもまず互いに認め合うことであり、社会的きずなにとって不可欠な行いです。そこには、御子イエスの受肉と聖霊の注ぎのうちに頂点に達する神の愛が映し出されているのです。

人はだれもが貧しく、助けを求めており、必要なものに事欠いています。生まれたときには、両親に世話してもらわなければ生きていけません。それと同様に、人生のあらゆる段階や局面で、わたしたちは皆、他者を必要とし、助けを求めずにはいられません。また、ある人や物の前で自分の無力さを実感するという限界から逃れることもできません。こうしたことは、わたしたちが「被造物」であることを表す特徴でもあります。この事実を率直に認めることにより、わたしたちは謙虚さを保ち、生きるうえで欠かせない徳である連帯を、勇気をもって実践するよう促されます。

こうした認識は、個人のものであり共同体のものでもある善を見据えながら、責任をもって行動し、他の人にも責任を任せるよう、わたしたちを導きます。人が自分自身のことを、孤立した世界ではなく、その本性上、他のすべての人と結ばれたものとして捉え、本来は互いに「兄弟姉妹」だと感じるときにはじめて、共通善に基づく社会的連帯は可能になります。自分は助けを必要とし、必要なものすべてを自分で得られないからといって、気に病むことはありません。自分ひとりでは、自分の力だけでは、どんな限界も克服できないからです。恐れずにそのことを認めましょう。神はキリストのうちに自らへりくだり(フィリピ2・8参照)、わたしたちを助け、わたしたちの力では決して得られない善を与えるために、わたしたちとその貧しさの上に身をかがめてくださったのですから。

インドで厳かに式典が行われるにあたり、わたしは貧しい人と病者への神の愛を目に見えるかたちで示した、愛のわざの模範であるコルカタの聖マザー・テレサの姿を、喜びと称賛のうちに思い起こしたいと思えます。彼女の列聖式で述べたように、「マザー・テレサは全生涯にわたり、生まれる前のいのち、世間から見放され見捨てられたいのちといった、人間のいのちを受け入れ守ることを通して、すべての人が神のいつくしみを手にできるよう惜しみなく分け与えました。……衰弱しきって死にかけている人の前にかがみ、道の端に連れて行って死を迎えさせてあげました。神がその人たちにお与えになった尊厳を認めていたからです。彼女は、この世の権力者の前で声を上げ、権力者自身が生み出す貧困という犯罪……に対する彼らの責任を自覚させようとしてしました。マザー・テレサにとっていつくしみは、彼女の働きのすべてに味をつける『塩』であり、貧困と苦しみのために涙も枯れ果てた人の闇を照らす『光』でもありました。都市の周辺部と、実存的辺境に対して彼女が行った宣教は、神が極限の貧困にあえぐ人々に寄り添っておられることを雄弁に物語るあかしとして、今の時代にも生き続けています」(「列聖式ミサ説教」2016年9月4日)

聖マザー・テレサは、言語や文化、民族、宗教の違いにかかわらず、すべての人に無償の愛を示すことこそが、活動の唯一のよりどころであることを教えてくれます。彼女の模範は、理解と優しさを求めている人々、とりわけ苦しんでいる人々のために、喜びと希望の展望を切り開くよう、わたしたちを導き続けます。

医療活動にとって極めて重要であり、よいサマリア人の精神をあらゆる形で体現しているボランティアの人々にとっては、無償であることこそが活動の原動力です。患者の搬送や救護に従事しているボランティア団体、さらには血液、組織、臓器提供のために尽力しているボランティア団体に、わたしは感謝と励ましの

意を表します。人々の中の意識を高め、予防を充実させることも忘れてはなりません、教会がとりわけ注目しているのは、病者の権利、とりわけ特別な治療を要する患者の権利を擁護する活動です。また、医療機関や在宅ケアでの皆さんのボランティア活動は根本的に重要なものであり、保健衛生から精神的サポートまで多岐にわたっています。その活動は病者、孤立した人、高齢者、心やからだに衰弱している人など、大勢の人々のために役立っています。わたしは皆さんが、この世俗化した世界において教会のしるしであり続けるよう願っています。ボランティアは、思いや感情を打ち明けることのできる公平無私な友です。傾聴することを通して彼らは、治療される受動的な存在である病者を、相互の関係における能動的な主体へと変えることができます。それにより病者は希望を取り戻し、治療を受ける心構えをもてるようになるのです。ボランティア活動は、「ささげる」というパン種を核心とする価値観、姿勢、生き方を伝えています。それは、治療をより人間味あふれるものにする活動でもあります。

とりわけカトリック系の医療機関は、無償であるという側面によって推進されるべきです。その働きは世界中、先進地域においても極貧地域においても、福音の論理のもとに行われているからです。利益最優先の論理、見返りを求める論理、人間を無視した搾取の論理に対して、カトリック諸機関はささげること、無償であること、連帯することの意味を明らかにするよう求められています。

利益優先の使い捨て文化を克服するために欠かせない無償で与える文化を、あらゆる分野に広めるよう、わたしは皆さんに強く求めます。カトリック系の医療機関は、利益優先主義に陥ることなく、収益よりも人々への配慮を重んじるべきです。健康状態は他者との関係に左右される相関的なものであり、信頼関係と友情、連帯を必要とすることは言うまでもありません。それは、分かち合ってはじめて「十分に」味わうことのできる恵みです。無償で与える喜びは、キリスト者の健康状態を示す指標なのです。

わたしは「病者の回復」であるマリアに、皆さんをゆだねます。わたしたちが対話と相互受容の精神のもとに受けたたまものを分かち合い、他者の必要に心を配りながら兄弟姉妹として生き、寛大な心で与えるすべを身につけ、私欲にとらわれずに奉仕する喜びを知ることができるよう、マリアが助けてくださいますように。わたしは祈りのうちに皆さんに寄り添うことを約束し、心から使徒的祝福を送ります。

バチカンより
2018年11月25日
王であるキリストの祭日
フランシスコ

新刊書籍案内

※ 「典礼聖歌（一般用・新装版）」

日本カトリック典礼委員会 編

カトリック中央協議会 「会報」 2019年3月号 (通巻566号)

発行日 2019年2月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <https://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457